

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目 ☐			
	1	2	3	4				
		●						
科目名	栄養学				担当講師	池田早苗		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位	時間	15 時間	学年	2年次	学期	前期	
概要	人間が健康な生活を営むためには生命維持・健康保持に必要な栄養素の種類、需要と供給のバランスを考えた必要量、さらに摂取方法について理解する必要がある。また、発達段階ごとに、現在の生活環境の変化やライフスタイルの変遷に伴う食の問題を理解し、生化学で学んだ知識をもとに、健康の保持増進、健康障害の回復に向けた食事に関する知識を習得する。							
到達目標	1. 生命維持、健康保持における栄養の意義を理解する。 2. 栄養素の消化・吸収・代謝および生理作用について理解する。 3. 健康障害時の食事療法の基本を理解する。							
回	授 業 計 画 ・ 内 容						学習方法	
1	栄養とは・健康な生活と食生活（１）						講 義	
2	ライフステージと食事（１）						講 義	
3	ライフステージと食事（２）						講 義	
4	療養生活と栄養（１）						講 義	
5	療養生活と栄養（２）						講 義	
6	各治療食の献立作成、食品サンプルでの献立作成						演 習	
7	各治療食の献立作成、食品サンプルでの献立作成						演 習	
8	まとめ・終講試験/解答・解説						講 義	
評価方法	客観試験							
教科書	系統看護学講座 専門基礎「栄養学」 はじめての食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会				医学書院 女子栄養大学出版部 文光堂			
参考書								
備考	※しっかり予習・復習して講義に臨みましょう							

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4					
		●	●						
科目名	地域の福祉活動				担当講師	大森 泰			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期	
概 要	看護が対象とするのは生活する人である。人は生活しながら生きていく中で様々な社会福祉制度の支えを受けている。自分が生活に困窮した時、或いは障害を背負った時のことを考えながら、社会福祉とは何か、社会施策にはどのようなものがあるのか、福祉の分野で働く人達の職種とその仕事内容は何かを学び、障害をもつ対象のその人らしい生活を支えるために、看護が他職種と協働・連携することを理解する。								
到達目標	1. 社会福祉とは何かを考えるとともに社会福祉施策を理解する。 2. 社会資源の活用と他職種との協働・連携を考える。								

回	主 題	内 容	学習方法
1	社会福祉援助とは	法的規定 生活の三側面 援助技術分類	講 義
2	地域における社会福祉実践の方法	個別援助技術	講 義
3	地域における社会福祉実践の方法	集団援助技術	講 義
4	地域における社会福祉実践の方法	関連援助技術、事例	講義・演習
5	社会福祉実践と医療・看護との連携と実際（１）	医療機関との連携	講 義
6	社会福祉実践と医療・看護との連携と実際（２）	他機関との連携、事例	講義・演習
7	社会福祉における民間活動	社会福祉協議会 民生委員 ボランティア活動	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	健康支援と社会保障制度「社会保障・社会福祉」 医学書院
参考書	
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目				☐
	1	2	3	4					
		●	●						
科目名	地域とリハビリテーション				担当講師	理学療法士学科講師・言語聴覚士学科講師			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	15 時間	学 年	2年次		学 期	後期
概 要	地域リハビリテーションの概念を理解し、地域・在宅における医療専門職の役割・現状・課題を理解し、医療専門職に求められる理念と知識、地域におけるチーム医療の重要性を学ぶ。また、地域生活に必要な生活支援や種々の身体機能の評価法、地域リハビリテーションの内容や地域連携パス、関連サービスなどとの関係性について理解を深める。高齢者・障害者にとって地域生活に重要な制度や支援体制、地域包括ケアシステムについて総括的に学習する。								
到達目標	1. 地域リハビリテーションの概念を理解し、地域包括ケアシステムについて理解できる。 2. 地域で生活するために必要な生活支援や身体機能評価の知識を理解して活用できる。 3. 地域における多職種連携およびチーム医療と地域特性に応じた支援体制について理解できる。								

回	主 題	内 容	学習方法
1	地域リハビリテーションとノーマライゼーション	ノーマライゼーション、国際機能分類ICF	講 義
2	地域リハビリテーションにおける介護保険制度	介護保険制度と地域包括ケアシステム	講 義
3	在宅リハビリテーションと地域リハビリテーションとの関連	地域連携パス、終末期リハビリテーション、パワーアシストスーツ	講義・演習
4	身体機能評価方法	ADL・IADL評価（FIM、バーセルインデックス）ROM、筋力向上訓練、松葉杖歩行の介助	講義・演習
5	地域生活支援と多職種連携	高齢者・障害者における地域生活支援と多職種連携	講 義
6	身体機能評価方法	高次脳機能障害評価とリハビリテーション	講 義
7	身体機能評価方法	嚥下評価、精神・認知機能評価 嚥下訓練、聴覚・味覚・視覚障害のある人への支援	講義・演習
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	必要に応じて資料を配布
参考書	系統別看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4				
		●	●					
科目名	公衆衛生				担当講師	酒井聖子		
分 野	専門基礎	授業方法	講義		実務経験			
単位数	1単位	時 間	30 時間		学 年	2年次	学 期	前期
概 要	公衆衛生学は生活者の健康の保持・増進を目的に、常に個々の住民の要請を捉えつつ、広く地域に対する政策から実施に向けた活動をするための実践的学問である。本科目では、21世紀の健康社会実現に向けた保健・医療・福祉そして環境総合的な理解を促し、看護職の役割を再認識する。その上で、各看護学領域の公衆衛生活動につなげていく。							
到達目標	1. 国民の健康に関する状況と生活環境との関係を理解する。 2. 生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動について理解する。 3. 保健分野に関連する法制度や政策・行政事業について理解する。							

回	主 題	内 容	学習方法
1	公衆衛生の理念と看護の倫理	公衆衛生とは何か	講 義
2	公衆衛生の理念と看護の倫理	プライマリーヘルスケア	講 義
3	公衆衛生の理念と看護の倫理	公衆衛生の活動対象	講 義
4	公衆衛生の技術	疫学と健康指針(保健統計)	講 義
5	公衆衛生のしくみ、多職種との協働、住民との協働	公衆衛生のしくみ、多職種との協働、住民との協働	講 義
6	集団の健康、公衆衛生、国際保健	集団の健康、公衆衛生、国際保健	講 義
7	地域における公衆衛生の実践	公衆衛生看護とは、母子保健、小児保健:事例	講義・演習
8	地域における公衆衛生の実践	成人保健、高齢者保健:事例	講義・演習
9	地域における公衆衛生の実践	精神保健、歯科保健:事例	講義・演習
10	地域における公衆衛生の実践	障害者保健・難病保健:事例	講義・演習
11	学校保健	産業保健、労働基準法・労働安全衛生法に基づく健康管理	講 義
12	職場と健康	産業保健活動の展開、今後の課題	講 義
13	感染症とその予防対策	地域における感染予防・対策法	講義・演習
14	健康危機管理・災害保健	健康危機管理、災害保健	講 義
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 「公衆衛生」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生統計協会
参考書	
備 考	* 教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4					
		●	●						
科目名	看護と法律				担当講師	横沢 亘・長島 光一			
分 野	専門基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1単位		時 間	15 時間	学 年	2年次		学 期	後期
概 要	人間社会は沢山の法に囲まれ、法によってその生活は成り立っている。看護も多くの法規によって規制され、そして守られている。対象が「人間」である看護においては、対象の権利を守るためにも日常的に法規に立ち戻る必要がある。本科目では、法の概念を理解するとともに、社会生活と法のつながりを学ぶ。そして、医療に関する法規と看護師に必要な法規を学ぶ。								
到達目標	1. 法の世界における基本的な概念・用語・論理の進め方を学ぶ。 2. 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律について理解する。								

回	主 題	内 容	学習方法
1	保健医療福祉と法の関わり方	保健医療福祉と関係法規	講 義
2	看護をめぐる法（1）	人に関する法律 ①医療専門職 ②福祉専門職	講 義
3	看護をめぐる法（2）	物・場所等に関する法律 ①物に関する法律 ②場所に関する法律	講 義
4	看護をめぐる法（3）	支えるシステムに関する法律 ①お金とサービスに関する法律 ②特殊な配慮を必要とする人に関する法律	講 義
5	看護をめぐる法（4）	政策に関わる基本法等の関連法令 ①医療政策 ②福祉政策 ③災害政策 ④情報政策 ⑤食品安全政策	講 義
6	看護をめぐる法（5）	政策に関わる基本法等の関連法令 ⑥人口政策 ⑦社会的弱者政策 ⑧労働政策 ⑨女性政策 ⑩環境政策	講 義
7	看護をめぐる法（6）	インフォームドコンセント 看護過誤 法と生命倫理：事例	講義・演習
8	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	ナーシング・グラフィカ「健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度」 メディカ出版
参考書	
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。